

小 郡 市 ス ポ ー ツ 推 進 基 本 計 画

【中 間 見 直 し 版】

令和2年8月

小 郡 市

小郡市教育委員会

目 次

第1章 計画の中間見直しにあたって	1
1. 見直しの趣旨	1
2. 見直しの考え方	1
第2章 現状と課題	2
1. 人口の現状分析	
(1) 人口動向分析	2
(2) スポーツ施設の概要	4
(3) スポーツ事業の概要	6
2. スポーツ推進に向けた課題	7
第3章 基本理念と基本施策	9
3-1. 基本理念	9
3-2. 基本方針	10
3-3. 施策体系	11
3-4. 基本施策	12

第1章. 計画の中間見直しにあたって

1. 見直しの趣旨

平成27年3月に「小郡市スポーツ推進基本計画」を策定し、計画に基づき施策を進めてきました。しかし、計画策定から5年目を迎え、社会情勢やライフスタイルの変化に伴い、スポーツ施策に関する課題や新たな取組みが進められています。また、計画のこれまでの推進状況や本市の課題を踏まえた上で、市が取り組む事業について内容の見直しや新たに取組むべき施策が出てきていることを受け、中間見直しを行います。

2. 見直しの考え方

基本的な計画体系(基本理念、基本方針)は、原則として現行計画どおりとし、今後5年間の具体的内容について見直しを行います。

(1) 小郡市スポーツ推進基本計画の推進状況及び及び国・県の方向性を踏まえ、今後重点的に取り組む内容を反映させた内容とします。

①地域スポーツの推進に向けた取組み

- 地域スポーツ推進のコーディネーター役であるスポーツ推進委員の活動支援
- スポーツ推進委員と地域団体との連携体制の構築

②関係する取組みを行う部署間の連携体制の構築

③スポーツに関わる団体との連携体制の構築

④障がい者スポーツの推進

⑤スポーツ指導者やスタッフなどの人材の育成及び派遣制度の構築

⑥スポーツをする環境の整備

[参考]

国・・・第2次スポーツ基本計画（平成29年3月策定）

スポーツ実施率向上のための中長期的な施策（令和元年8月スポーツ庁長官決定）

県・・・福岡県スポーツ推進基本計画後期計画（平成30年12月策定）

(2) 市の総合振興計画や関連する計画との整合性を図ります

(3) その他、団体名や大会の名称変更など、現状に合わせた文言の修正を行います

(4) 計 画 の 期 間：平成27～平成36年（10年間）

中間見直し期間：令和2～令和6年（5年間）

第2章. 現状と課題

1. 人口の現状分析（※小郡市人口ビジョン 令和2年改訂版より抜粋）

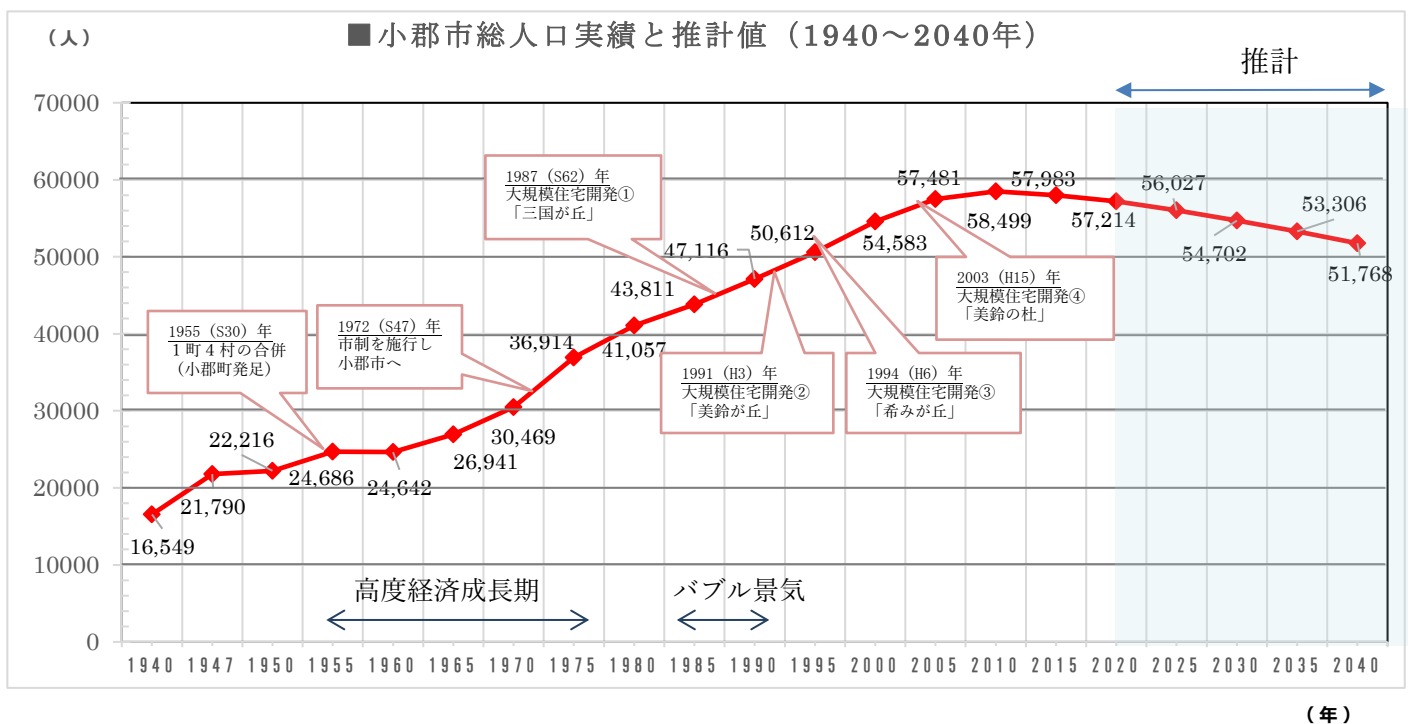
（1）人口動向分析

小郡市の過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、国から提供されるデータの活用等により、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

① 総人口の推移と将来推計

小郡市では、高度経済成長期に当たる1970（昭和45）年～1975（昭和50）年に人口が急増し、その後も緩やかに増加しています。

2011（平成23）年に策定された、第5次小郡市総合振興計画では、目標年次である2020（令和2）年の人口は60,000人を超えると推定されていましたが、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計では、2010（平成22）年の58,499人をピークに緩やかに減少していくと考えられています。



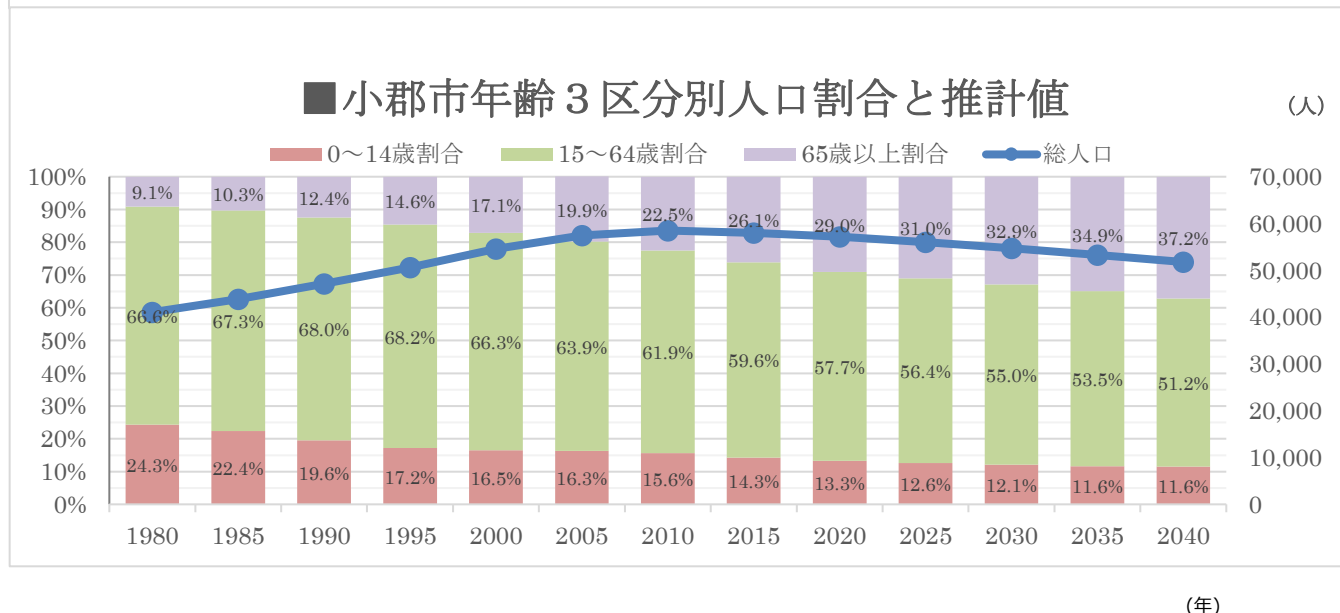
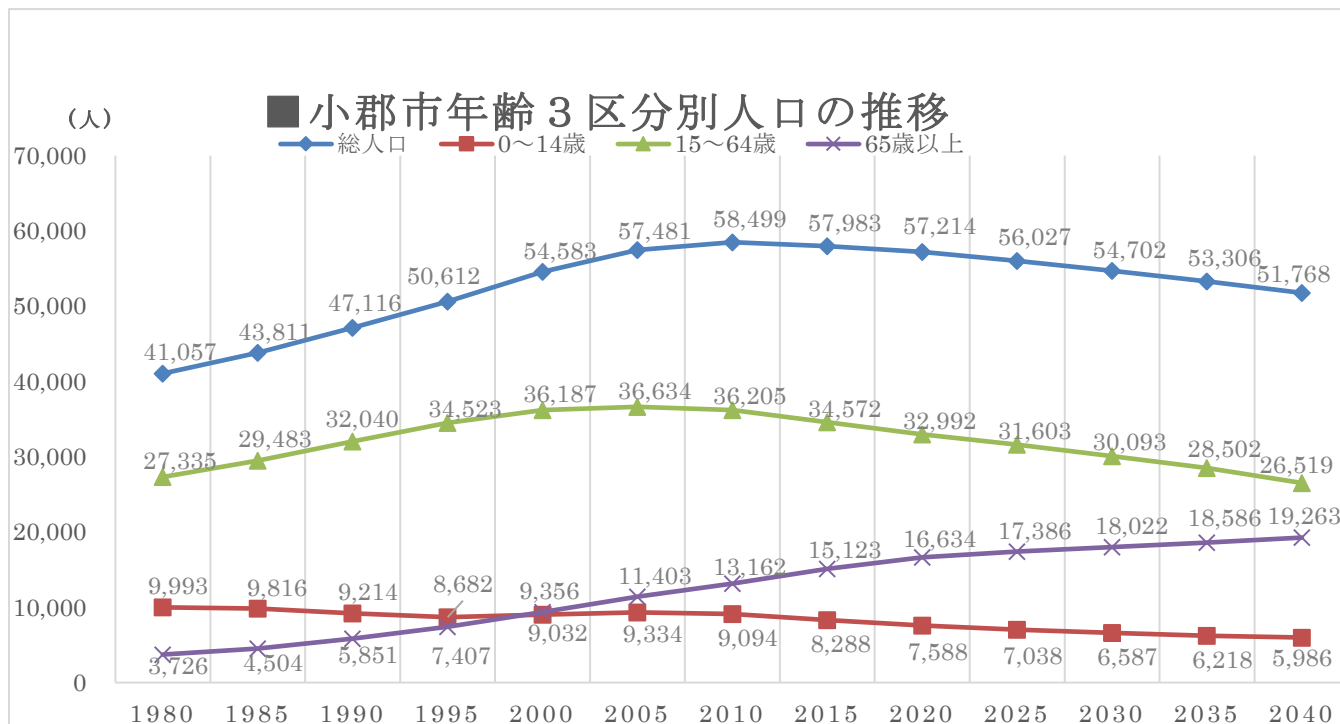
資料：2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値
2020年以降は「社人研」のデータに基づく推計値

② 年齢3区分別人口の推移と将来推移

年少人口（0～14歳）は、1980（昭和55）年から年々減少を続け、2040（令和22）年には1980（昭和55）年の約6割まで減少すると推計されています。

生産年齢人口（15～64歳）は2005（平成17）年の36,634人をピークに年々低下しています。

一方、老年人口（65歳以上）は1980（昭和55年）以降増加を続け、構成比は2000（平成12）年に年少人口を上回るなど、高齢化が急速に進行していることがわかります。



資料：2015年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値

2020年以降は「社人研」のデータに基づく推計値

※総人口については、年齢不詳は含む

(2) スポーツ施設の概要

本計画の対象となる小郡市内のスポーツ施設の概要を以下に示します。小郡市体育館、小郡市勤労青少年体育センター（武道場）、小郡市弓道場については、建設から約 45 年経過しており、老朽化が進行していることや、武道場及び弓道場は耐震改修工事を行っていないことから新耐震基準（昭和 56 年改正）に適合していないことが分かります。特に、小郡市体育館については、建設当時児童体育館として建設された経緯があり、天井高が低いなど競技基準に適合していないことが指摘されています。

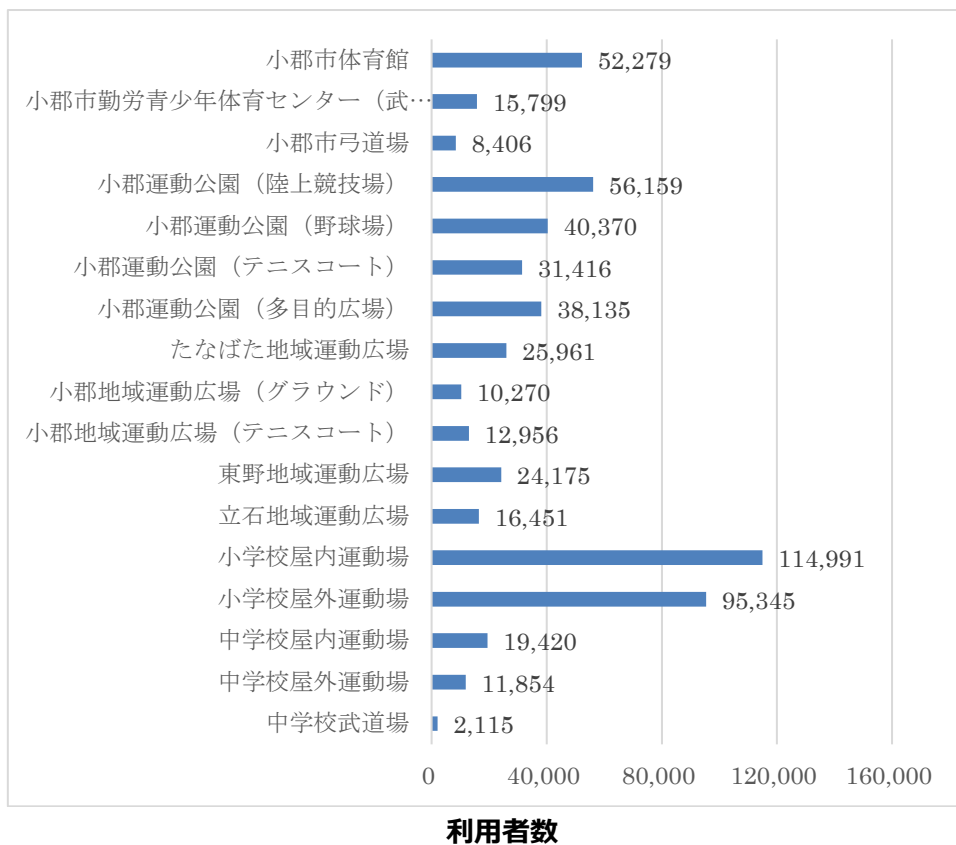
また、スポーツ施設の配置状況（次頁）を見ると、多くの施設が市の中央部に位置していますが、小・中学校の屋内運動場や屋外運動場が社会体育に開放されており、中央部以外の身近なスポーツ施設として機能していることが分かります。

▼ スポーツ施設の一覧

	施設名	建設 年次	経過 年数	建築 構造	耐震 基準
市 施 設	小郡市体育館	1974	45	RC 造	耐震補強済み
	小郡市勤労青少年体育センター（武道場）	1975	44	RC 造	不可
	小郡市弓道場	1976	43	木造	不可
	小郡運動公園（陸上競技場）	1994	25	RC 造	可
	小郡運動公園（野球場）	1994	25	RC 造	可
	小郡運動公園（テニスコート）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（多目的広場）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（アスレチック広場）	1994	25	-	-
	小郡運動公園（ジョギングコース）	1994	25	-	-
	たなばた地域運動広場	1994	25	-	-
	小郡地域運動広場	1984	35	-	-
	東野地域運動広場	1992	27	-	-
	立石地域運動広場	1994	25	-	-
	小・中学校屋内・屋外運動場	-	-	-	-
民 間 施 設	ブリヂストンスイミングスクール小郡	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 三国校	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 小郡校	-	-	-	-
	楽之館剣道場	-	-	-	-

また、市の運動施設の利用者数（平成30年度資料）を見ると、小郡市体育館及び小郡運動公園の利用者数が多く、年間約5万人の人が利用しています。また、小・中学校の屋内・屋外運動場についても利用者が多く、特に小学校の屋内・屋外運動場の利用が多いことが分かります。

▼ 各施設の利用者数（平成30年度）



(3) スポーツ事業の概要

小郡市で実施されているスポーツ事業の概要を以下に整理します。

▼ スポーツ事業一覧

事業の分類	事業名	開催 時期	開催場所
市民を対象とした事業	スポーツレクリエーション大会	9月	小郡市体育館
	市民ふれあい運動会	10月	陸上競技場
	おごおり駅伝	1月	運動公園周辺
	福岡小郡ハーフマラソン大会	3月	市内
子どもを対象とした事業	ジュニアスポーツフェスティバル	4月	小郡市体育館他
	ライジングゼファー福岡によるバスケットボール クリニック	7月	市内小学校体育館
	グリーンパークみんなであそぼう！ in おごおり	11月	陸上競技場
	福岡ソフトバンクホークスによる野球教室	12月	野球場
	サガン鳥栖サッカー教室 in おごおり	3月	陸上競技場
就学前の親子を対象とした事業	かるがも教室	年 20 回	小郡市体育館
	春休み・夏休み・冬休み軽スポーツチャレンジ教室	年 3 回	小郡市体育館
観戦型事業	ウエスタン・リーグ公式戦	-	野球場

2. スポーツ推進に向けた課題

小都市の特性やスポーツに関する状況を踏まえ、小都市におけるスポーツ推進に向けた課題を人、活動、仕組み、施設の4つに分類し整理します。

■ 人に関する課題

スポーツ・運動に対するきっかけづくり

市民アンケート調査及び小・中学生アンケート調査結果より、スポーツ・運動を行っている割合は7割と多く、意識が高いことが伺えます。しかし、スポーツ・運動をしていない約3割の人々の運動をしない理由等を見ると、慣れ親しむためのきっかけを提供することが必要であり、まずは市民のスポーツ・運動に対する意識を向上させる必要があります。

少子高齢化に伴うスポーツ人口の減少への対応

本市の高齢化率は、県の平均と比較すると低い方ですが、年々高くなっており、今後も高齢化は進むと考えられます。このような中で、市民アンケートの結果にもスポーツ活動を盛んにするために必要なこととして、中高年者のスポーツ活動の推進が求められています。また、小・中学生がスポーツをする環境を整えることも必要とされています。子どもから高齢者までスポーツに取り組める環境づくりが必要となります。

■ 活動に関する課題

スポーツを行う目的の多様化への対応

近年、スポーツをする目的には身体機能の向上や健康づくりといった目的に加えて、地域コミュニティの形成や世代間交流といった社会的な目的も求められています。本市においても、健康づくり以外にも余暇活動としてスポーツ・運動を行っている人も多くいます。市民がスポーツに取り組む目的が多様化している中で、競技スポーツだけではなく、いつでもどこでも誰でも気軽にできるスポーツ・レクリエーション活動も同時に推進していくことが重要です。

将来を担う子どものスポーツ活動の低迷

本市における小・中学生のスポーツに対する意識は、高い傾向にあります。しかしながら、団体ヒアリング結果を見るとジュニア世代の育成が課題として挙げられています。生涯スポーツの基礎は少年期のスポーツへの関わり方と強く関連します。すべての子どもたちが充実したスポーツ活動に接することが出来る取り組みと支援が重要です。

■ 仕組みに関する課題

スポーツに関する情報発信の強化

本市には総合型地域スポーツクラブ「小郡わいわいクラブ」がありますが、認知度及び参加率は高くなく活動内容もあまり知られていない状況となっており、本市が実施しているスポーツ事業についても認知度にバラつきがある状況です。また、各スポーツ団体は競技人口が伸び悩んでおり、各々で情報発信をしていますが、効果は芳しくない現状があります。したがって、スポーツを身近に感じ、参加するためのきっかけとして、イベントの周知や各団体の活動状況など、スポーツに関する情報発信を高める仕組みが必要です。

■ 施設に関する課題

スポーツ活動の場の老朽化と不足

本市のスポーツ施設は、小郡運動公園が屋外競技スポーツの拠点として多くの人々に利用されています。しかし、屋内競技スポーツの拠点となるべき小郡市体育館は老朽化や規模の不足が問題として市民アンケート、団体ヒアリングにおいて挙げられています。また、市の中央部にスポーツ施設が集まっていることから、学校施設の活用ニーズも高く、特に屋内競技スポーツで利用されています。したがって、市全体におけるスポーツ活動の場の位置付けを再整理し、必要に応じてソフトとハードの両面から整備を進めていく必要があります。

第3章. 基本理念と基本施策

3-1. 基本理念

小郡市民のスポーツに対する意識は総じて高く、日常的にスポーツ・運動に慣れ親しんでいる状況であり、今後はその質の向上を目指していくことが望まれます。また、スポーツを通じて、小郡市総合振興計画に掲げる将来像である「人が輝き、笑顔あふれる 快適緑園都市・おごおり」を目指し、健康でいきいきとした生活を実現するとともに、スポーツによる市民の多様な交流の場を創出し、笑顔あふれるまちの実現に繋げていくことが大切だと考えます。

そこで、本計画は、「**暮らしと密着したスポーツのまち おごおり**」を基本理念とし、暮らしと密着したスポーツを通して健康の増進や人と人のつながりを創出し、市民全体が豊かな生活を送ることが可能なまちを将来像として、本市のスポーツを推進します。

3-2. 基本方針

柱 1 | ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション機会の充実

市民のスポーツに対する高い意識を更に向上させることや、日常的にスポーツを行っていない市民に対してはスポーツの持つ役割や効果を発信することと同時に、スポーツ・運動を行いたいという意識の形成を図ります。

少子高齢化や人口減少などの社会変化の中で、スポーツに対するニーズが多様化する中、競技スポーツから誰もがスポーツに関わることができるいわゆる生涯スポーツ活動など、ライフステージに応じたスポーツをする機会の創出を図ります。

柱 2 | スポーツを支え、生かす仕組みの充実

スポーツをするためには、指導者、審判員、団体運営者、施設管理者など、スポーツに係わる様々な人材の協力が必要不可欠であることから、その人材育成や活動の活性化を図ります。

スポーツ・運動をしたいという市民に対して、必要な情報を必要な時に取得できるように、メディアやインターネットをはじめとした情報ネットワークの形成を図ります。

市民が気軽に地域でスポーツができる仕組みとしての総合型地域スポーツクラブの活動支援、学校教育や各種団体との連携など、市民のスポーツ環境を支える連携体制づくりを図ります。

柱 3 | スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実

屋外スポーツの拠点として小郡運動公園、屋内スポーツの拠点として小郡市体育館を位置け、機能強化や利用促進を図ります。特に小郡市体育館については、老朽化が進行し、市民のニーズに対して十分なサービスが提供できていない状況を鑑み、財政事情を勘案しながら適切な整備を目指します。

市民が身近な場所でスポーツをできるようにするため、各地域の身近なスポーツ環境として機能している学校施設や近隣市町村との連携を行うなど、スポーツができる場所の拡充を図ります。

3-3. 施策体系

基本理念

くらしと密着したスポーツのまち
おごおり

基本方針

柱 1

ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション機会の充実

柱 2

スポーツを支え、生かす仕組みの充実

柱 3

スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実

基本施策

(1) 各種スポーツ事業の充実

(2) ジュニア世代のスポーツ活動の推進

(3) 高齢世代のスポーツ活動の推進

(4) 子育て世代のスポーツ活動の推進

(5) 障がい者のスポーツ活動の推進

(1) 団体との連携・支援

(2) 地域との連携・支援

(3) スポーツ関連情報の発信

(4) 支える人材の育成・発掘

(1) 屋外スポーツ施設の整備・改善

(2) 屋内スポーツ施設の再整備

(3) 学校体育施設の適正な維持管理

(4) ソフト・マネジメントの改善

(5) バリアフリー化及びユニバーサルデザイン化の促進

3-4. 基本施策

柱 1 | ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション機会の充実

(1) 各種スポーツ事業の充実

スポーツに興味を持つきっかけとして小郡市が行っている各種事業があります。市民アンケートの結果を見てみると、満足度にバラつきがあるため、満足度が低いイベントについては、内容や開催時期の見直しを行なうことによって、事業の充実を図ります。

【主な取組み】

- 認知度、満足度の高い福岡小郡ハーフマラソン大会は、コースの見直しや大会イベントの充実など、魅力ある大会づくりを行う
- ジュニアスポーツフェスティバル、市民ふれあい運動会などの各種スポーツ事業の満足度を高めるために内容や開催方法の見直しを図るとともに、スポーツ体験会などのスポーツに親しむきっかけづくりとなる事業やファミリー健康体力向上事業などの家族で参加できる事業の充実を図る
- 子どもをはじめ、市民に夢や感動を与え、スポーツに対する関心を高めるため、小郡市スポーツ協会と連携し、プロスポーツ選手と触れ合えるイベントの充実を図る

(2) ジュニア世代のスポーツ活動の推進

青少年期は心身の基礎をつくる大切な時期であり、定期的にスポーツを行う習慣を身につけることが重要です。そこで、スポーツに対する様々な情報を提供するなど、学校での体育活動やクラブ・部活動の充実を図ります。

【主な取組み】

- 学校部活動やクラブ活動と小郡市スポーツ協会との連携を強化することにより、小・中学生スポーツに対する意識の向上を図る
- 地域にスポーツ指導者を派遣し、スポーツの楽しさを伝える活動を行うための仕組みを構築し、小・中学生のスポーツに対する意識の向上を図る

(3) 高齢世代のスポーツ活動の推進

今後の高齢化社会を見据え、高齢者がスポーツや運動を通じて地域社会に参加し交流を深め、生きがいを感じられるよう、健康づくり分野と連携を図りながらスポーツを推進します。

【主な取組み】

- 安全性に配慮したウォーキングコースやジョギングコースなどの選定など、日常的に運動できる環境の構築を図る
- 健康づくりに関する事業を行っている関係部署との連携を図り、健康づくりのための運動の推進を図る
- 総合型地域スポーツクラブ小郡わいわいクラブを活用した健康づくりのための教室の充実を図る

(4) 子育て世代のスポーツ活動の推進

幼児を対象としたスポーツ活動の推進を図ると同時に、育児中の親が気軽にスポーツや運動を行いやすい環境の整備を図ります。

【主な取組み】

- 現在開催している、かるがも教室などの親子で楽しめるイベントの拡充など、親と子が触れ合う機会の充実を図るため、子育て支援担当課と連携し、指導者やスタッフの育成を行う
- 子育て世代が安心してスポーツを楽しむことができるように、新規整備するスポーツ施設についてはキッズスペースなどの機能配置を検討する

(5) 障がい者のスポーツ活動の推進

障がい者のスポーツ活動を推進するために、日常的にスポーツ活動ができるような環境の整備に努めます。

また、スポーツ活動を通じて、障がいのある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会の実現に取り組みます。

【主な取組み】

- 各スポーツ施設のバリアフリー化を促進する
- 障がい者福祉担当課や関係団体と連携を図り、障がい者スポーツの推進に関する情報の共有と推進体制づくりを行う

(1) 団体との連携・支援

生涯スポーツや競技スポーツのほか、スポーツ・レクリエーションなど各分野でスポーツを実施している各団体との連携を深め、地域のスポーツ活動や市民活動を支援します。

【主な取組み】

- スポーツ競技人口の増加や競技力の向上など競技スポーツの推進を図るため、市スポーツ協会及び協会加盟団体の活動を支援するとともに連携を深める
- 競技団体同士のつながりを創出し、活動場所や時間に関する調整を行ないやすくなるような環境を整備する
- 総合型地域スポーツクラブ小郡わいわいクラブの育成・支援を行う
- 市が各団体のつなぎ役となり、市全体のスポーツ・レクリエーション活動の総合的な窓口としての役割を担うよう努める

(2) 地域との連携・支援

地域で住民同士が交流し、協働してスポーツを開催実施することで、コミュニティの形成・活性化を図るため、市民が参加しやすい地域単位の事業・イベントを開催するなど、地域のスポーツ推進に向けて地域との連携を図ります。また、近隣市町村との連携強化についても検討します。

【主な取組み】

- 校区でスポーツイベントを開催するなど、地域のスポーツ推進を図るため、各校区のまちづくり協議会スポーツ関連部会とスポーツ推進委員とが連携できる体制づくりを行う
- 近接市町村と連携し、地域同士の交流が生まれるスポーツイベントを開催する

(3) スポーツ関連情報の発信

市民が必要とする時に、いつでもスポーツについての情報を得ることができるよう、スポーツに関する適切な情報提供を図ります。また、多くの人にとって、スポーツを観ることは最も手軽で身近なスポーツとの関わり方であることから、スポーツ観戦についても情報発信を図ります。

【主な取組み】

- 市が行っている各種スポーツ事業の情報発信を充実させ、日常的にスポーツ・レクリエーションに参加する機会を創出する
- どの場所でどの団体がどのような活動を行っているのかなど、市内でのスポーツ活動の情報を収集し、一元的にホームページ等で発信するなど市民が必要な時に取得できる仕組みの構築を検討する
- 陸上競技場や野球場など観戦設備が整った施設を十分活用し、各スポーツ事業の観戦に関する情報発信に努める

(4) 支える人材の育成・発掘

市民が幅広くスポーツに親しむ機会を提供するため、地域のスポーツ推進のコーディネーター役であるスポーツ推進委員の育成及び活動を支援します。

また、市民のニーズに対応した指導者の育成を図るとともに、スポーツ活動の企画や運営を支えるスタッフやボランティアの必要性及び活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充を図ります。

【主な取組み】

- スポーツ推進委員の地域での活動を推進するため、校区まちづくり協議会スポーツ関連部会との連携体制づくりを行うとともに、スポーツ推進委員の増員と校区から選出される仕組みづくりを行う。また、研修を充実することにより、スポーツ推進委員の育成及び資質向上を図る。
- スポーツ指導者、競技団体の運営や大会の開催等を支援するボランティアなど、人材のリスト化を行ない、スポーツ活動を行う上で指導や支援を必要とする市民とのマッチングができるよう、市スポーツ協会と連携して調査・研究を行い、制度の構築を行う
- 市民のスポーツニーズに答えるために、適正な指導ができる人材を研修等により育成する

(1) 屋外スポーツ施設の整備・改善

屋外スポーツの拠点である、小郡運動公園内の陸上競技場、野球場、テニスコートなどは、一部老朽化が進行している箇所があるため、競技性の維持のために必要な整備・改修を行います。

また、各地域運動広場についても、利用者の安全面や利便性に配慮し、必要な整備を行うなど適正な維持管理に努めます。

【主な取組み】

- 施設を適正に維持管理するための整備に取り組む
- 適正な維持管理を行うにあたって、公共施設等総合管理計画との整合性を図りながら、整備プログラムの策定を検討する

(2) 屋内スポーツ施設の再整備

屋内スポーツの拠点として重要である、小郡市体育館及び小郡市勤労青少年センター（武道場）、小郡市弓道場は施設規模が小さくかつ老朽化していることに加え、バリアフリーについても不完全であり、また観覧席もないなど、現在のスポーツニーズに対応できていないことから、今後の屋内体育施設の拠点となるよう新総合体育館の整備に向けて進めていきます。

【主な取組み】

- 老朽化が進行している小郡市体育館及び小郡市勤労青少年体育センター（武道場）、小郡市弓道場については、施設の整備・維持に努めるとともに、市民や利用団体のニーズに即した施設となるよう、新総合体育館の整備に向けて進める

(3) 学校体育施設の適正な維持管理

地域スポーツの拠点として位置付けられる各小・中学校の体育施設は、施設管理部署との連携により、適正な維持管理に努めます。

【主な取組み】

- 各小・中学校の体育館、武道場等は、利用者の安全面や利便性に配慮した適正な維持管理に努める

(4) ソフト・マネジメントの改善

市民がスポーツに親しめる場を提供するために、現在のニーズにあった利用方法等の簡素化に努めます。

【主な取組み】

- 利用申し込みの簡素化や利用方法等の見直しにより、多くの市民が利用しやすい施設づくりに努める

(5) バリアフリー化及びユニバーサルデザイン化の促進

施設のバリアフリー化を推進するとともに、ユニバーサルデザインの観点に基づき、全ての人々が利用しやすいスポーツ環境整備を推進します。

【主な取組み】

- 既存施設については、バリアフリー化を促進する
- 今後新規に整備する施設は、ユニバーサルデザインの観点に基づき整備を行う